

## 重点施策2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

### 【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道德性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道德教育、特別活動、総合的な学習の時間
- ③ 外国語活動(小学校)
- ④ 情報・視聴覚教育
- ⑤ ふるさと教育
- ⑥ 研究事業等

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ① 学習指導

各校で新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じながら、工夫を凝らした実践が行われた。これまでの実践を基盤とし、令和2年度末に整備した一人一台端末と高速ネットワーク環境を活用した授業への取組が始まった。クラウド型の学習支援ツール「ロイロノート・スクール」や「Google Workspace」を使い、教員は課題や問題を配付し、子どもたちはそれを端末で確認し、学習を進め、学習成果をクラウドにアップしていくといった授業風景が見られるようになった。3学期になると子どもたちのタイピングも速くなり、本格的に使いこなせるようになってきた。

市教育研究では新しいブロックの研究がスタートした。教科部会の公開授業では10教科中9教科でICTを活用する場面が見られた。人権尊重の理念を基盤にした学力向上を目指す共同研究が推進され、児童生徒に確かな学力と自ら考え学び合う力が育ったことが伝わってきた。

不登校傾向の児童生徒や、新型コロナウイルス感染症対応等で登校できない児童生徒に対して学びの保障の観点から、一人一台端末を活用したオンラインでの授業も積極的に行った。また、修学旅行や自然体験活動の事前の学校間交流にもオンラインによる一人一台端末を活用し交流するなど、活用の幅が広がってきた。

また、学校教育活動指導員を、継続して4校(白浜小、神山小、江戸岡小、宮内小)に配置し、人数の多い学級において少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導の充実に努めた。

##### ② 道德教育、特別活動、総合的な学習の時間

市教研の道德部会では小・中ともに2年ぶりに研究授業を行い、道德的価値に迫る

ための学習活動の工夫や評価の在り方について、研修が進んだ。

総合的な学習の時間部会では、これまで以上に地域に根ざした研修を深めるために、市内の企業見学を中心に据えた研修を行い、ふるさとをテーマとした協同的な学びにつながる取組について、具体的に考えることができた。

### ③ 外国語活動(小学校)

教育委員会は、ALT 3名(9月に1名、11月に2名を採用)、外国語指導助手コーディネーター1名、外国語指導補助員1名を採用し、小学校の外国語科・外国語活動担当教諭の指導力の向上やALTを効果的に活用した小学校低学年の外国語教育の継続に取り組んだ。

### ④ 情報・視聴覚教育

小学校では、導入された一人一台端末を使ってプログラミングを指導する授業、教科学習の目標達成のためにプログラミングのよさを生かす授業、プログラミング的思考を活用して教科学習の目標達成を目指す授業が行われた。

市教委主催の研修で、一人一台端末と対面を活用したハイブリッド研修にも積極的に取り組んだ。

ホームページを活用した積極的な情報発信については、全ての学校で充実した内容になっている。

### ⑤ ふるさと教育

各校で、地域に受け継がれてきた伝統や文化、地域の歴史などについて調べる学習を行っている。その際、幅広く情報を集め、学習内容について理解を一層深めるよう、公民館やボランティアの協力を得るなど、地域の実状に応じた取組を行っている。

小学校では、市教研社会科部会の教員を中心に作成した「八幡浜の暮らし」を使用し郷土を愛する心を育む学習の充実を図っている。

中学校では、さらに県や大学と連携し、「職場体験」「中学生版の合同会社説明会」「中学生と大学生のカタリバ」を開催し、キャリア教育の充実を図っている。

### ⑥ 研究事業等

次の学校が研究指定を受け、教育実践を通して児童生徒の生きる力の育成に成果を上げた。

- 愛媛県環境教育推進事業(松柏中)

## 【事務事業点検評価委員意見】

- 多様な学びを支える環境充実の取組として、教育委員会主導の下、デジタル環境の整備と教材の活用が着実に進行している。一人一台端末と校内通信ネットワーク整備が速やかに完了したことに加え、授業にICTを効果的に活用できる教員の割合が増加していることは、子どもの学習の機会平等を担保するものとして高く評価できる。今後もデジタル教科書の円滑な導入を視野に入れながら、継続的、発展的に教材開発と教授法の工夫・研鑽が行えるよう各方面からの支援を続けていただきたい。
- 一人一台端末と高速ネットワーク環境を活用した授業への取組が本格的に始まり、子どもたちはタイピングの速度だけでなく、プログラミング的思考とスキルを身に付け、それを各分野の学習に生かすことで活動の幅を広げつつある。教師のより質の高い指導を行うため

に、小・中間で指導の履歴を情報共有する仕組みが整えば、子どもをより深く正しく理解し、能力をより引き出す教育ができるようになると思う。研修主任研修会や情報教育主任研修会等を活用し、情報共有により一層努めていただきたい。

- コロナ下においても、学校間交流等でオンライン授業や遠隔合同授業を取り入れるなど、各校が工夫を凝らしながら「学び合い学習」を取り入れた授業改善を推進しており、児童生徒が自ら進んで学習に取り組む態度の育成が図られている。また、外部講師やALTを積極的に活用し、創意ある授業を展開している。さらに、「八幡浜のくらし」等、地域や児童生徒の実態に応じた教材を活用したり、授業のユニバーサルデザイン化を図ったりして、よく分かる意欲的に取り組める授業づくりに邁進している。今後、GIGAスクール構想下でのICTを効果的に活用した「学び合い学習」の一層の推進、「愛媛学びの森学習支援サイト」の積極的な活用による児童生徒の学習習慣の確立、児童生徒用タブレット端末の持ち帰りに係る啓発活動の充実等を図っていただきたい。
- 変化が加速度を増し予測困難な時代を生きていくためには、子どもたちは、変化を前向きに受け止め、自ら課題を発見し、他者と協働しながら解決する力が求められている。「ふるさと教育」をその力を育成するための有効な手立ての一つとして捉えれば、生まれ育ったふるさと八幡浜という身近なものを題材とし、その課題を発見し、他者と協働してその課題を乗り越えていく経験は、将来、より広い視野に立ち、ふるさとの可能性を模索し、ふるさとを支え、発展に貢献する第一歩になると考えられる。このためには、ふるさとに対して問いを発し、ふるさとで活躍する人々と出会いながら、自分が思っていることを伝えたり、話し合っただけで新たな視点を見出したりする、実社会や実生活に関連付けたリアルな学びを追究することが重要である。そのような中で、本市が中学校で進めている、県や大学と連携した「中学生版の合同会社説明会」「中学生と大学生のカタリバ」の開催は非常に有意義であると思う。今後も、児童生徒がふるさとの資源や人々と直接触れ合い、そのよさや素晴らしさを実感する機会を設けていただきたい。
- 現在の社会状況を見れば、グローバル化や情報通信技術の進展、かつてないスピードでの少子高齢化の進行、国際情勢の悪化、円安による景気の停滞など、変化が激しく予測が困難な時代となっている。与えられた正解のない社会状況だからこそ「不易」と「流行」のバランスの大切さを感じる。カリキュラムの改革やICTの活用等、教育が急速に変化していく一方、時代を超えて変わらない価値のあるものもある。子どもたちをどのように育むのか、今こそねらいをはっきり据えて、日々の教育に取り組む必要がある。一人一人の教職員で作り上げる職場全体の意欲や雰囲気、また一人一人の教職員を伸ばしていくと考える。コロナ下だからこそ、子どもたちにとって教職員の存在は今まで以上に大切な存在であると思うので、どんな時もどんなこともまずは心で寄り添って話を聞いてくれる教職員であってほしい。その部分を大切にしながら様々な資質能力も向上していただきたい。その方向性を示すのは、学校現場を指導する教育委員会の任務ではないかと考える。

#### 【自己評価】

- デジタル教科書は現在、英語はすべての小・中学校に、算数・数学は7校、理科は2校に導入しており、授業でも十分に活用されている。現場の意見を聞きながら指導用のデジタル教科書も視野に入れて導入を検討していく。

- 指導の情報履歴の共有もGIGAスクール構想において進んでいる。これまで行っていた研修主任会や情報教育主任研修会での定期的な情報共有に加えて、現場では、市で導入したロイロノートというツールを使って日常的に共有の活用が行われている。さらに、学習支援サイト「愛媛学びの森」の利用も、新たに県が導入したICT学習支援システム「エイリス」と組み合わせ、幅広く活用が進んでいる。また、教育委員会は今後の端末の持ち帰りに向けて、環境整備を行ってきた。新しいシステムの利用や取組が停滞しないよう、啓発やサポートに努めていく。
- 今年度、八幡市と本市の交流事業を3年ぶりに行った。当初12名の応募予定だったが、予想を上回る42名の応募があった。受け入れ側である八幡市の配慮もあり、15名の生徒が参加した。出発前の学習会では市民ミュージカル劇団による二宮忠八物語を観劇した。「中学生版の合同会社説明会」「中学生と大学生のカタリバ」等、今後も本市の資源を十分に活用し、人々との触れ合いを大切にしたい体験活動を設けていく。
- 子どもは先生を信頼すると、その先生が好きになり、安心感をもつ。そして同時に素直さもでてくる。時代とともに教育の方法はアップデートしつつも、教師自身の人柄と子どもたちへの関わりによって子どもたちの意欲が大きく左右されることは不易である。子どもたちの気持ちに寄り添える教師であり続けられるよう、教職員へ学びの方向性を示していきたい。